

書物

静閑堂主人

日本ほど書籍や雑誌、パンフレットが氾濫している国は少ないと思う。私は氾濫と云う言葉を使ったが、どんな小さい都会にも書店がある。

あなたの御趣味は何んですかと聞くと、まあ読書と散歩でしょうかねと答えるのが普通だ。こうなると日本人位読書を楽しむ国民は少ないようであるが、車中などで見かけるのは主として週刊誌が多い。所謂積んどく蔵書家も相当居るようだ。私はかつてある農業経済学の教授から本は早く読まねばならない。斜めに読むような習慣をつけろと言われたのを記憶しているが、私に取っては小説本ならとも角、専門書のむずかしい奴は苦手だ。

古人は読書百遍意自ら通ずと云っている。何回もくり返すのは教科書か参考書位であろう。それはとも角として、読書の習慣をつけて置かないと、睡眠薬になる事は確実だ。又たまに難かしい本を読むと妙にくたぶれる。こうなっては大変だ。

又本を人に貸すと中々帰ってこない。どうせ、こちらで読んだのだからいつでもよいと思って催促するのもどうかと思っていると、永久に帰ってこない。一つの本をたくさんの人が読むのは結構だが、所在不明となってはどうかと思う。お互に気をつけたい事である。

専門書は必要に応じて利用される。それでよい訳だが、理解するには専門書に又それを解説する専門

書が必要となり、大変な努力を必要とする。

畜産関係では養鶏とか酪農に随分著作が多い。そして名著も多い。書いてあるのを額面通り実行して、よい結果が生じないため著者をうらむ事があるが、活字にしてぴったり表現し難い事が多いので、全部が全部著者の責任に帰するのはどうかと思う。書物には大体の方向が示されているものと解釈すべきであらう。

併し文章にうまくまとめる事は中々難しいが、自己の意見とか業績発表の場として必要であるので、勇気を出して実行すべきだと思う。自分の書いたものを活字にしてみると中々味のあるものである。これも社会への奉仕と考えてよいではないか。